

第3章 施設計画

3-1 施設の再整備計画

1 情報発信機能

那須町及び近隣地域の観光・交通情報をはじめ、歴史・文化・芸術・災害等の情報をタイムリーに提供することにより、町内周遊を促進する仕組みを構築する。

(1) 観光交流センター

- 那須町の観光情報発信の拠点として、観光交流センターの機能強化を行う。事業費削減のため、現観光交流センターとアグリ情報館は引き続き利用することとし、不足する面積については増築で対応する。
- 増築後の観光交流センターは、来場者がスムーズに情報を入手するのに十分な規模を確保する。
- 施設内には、案内カウンターのほかに、情報閲覧やバス待ちのお客様のための休憩スペースやパンフレット置き場、従業員のための事務スペースを配置する。
- バスターミナルを観光交流センターに隣接させることにより、利用者の利便性向上を図る。
- 利用者は、夜間や休日など、スタッフ不在の時間帯にも情報が入手できるようにする。
- インバウンド観光対応のための体制を整備する。
 - ・Wi-fi 端末等の充実、外国語表記、免税カウンターの整備等
 - ・観光案内コンシェルジュ、外国人対応スタッフの配置等



観光交流センター外観



観光交流センター内部

■観光交流センターの規模算定

○事務職員の想定人数

事務職員	2人	
観光案内業務	5人	
外国人対応	3人	日本語のほか3か国語対応(英語、中国語、韓国語)
合計	10人	

○必要規模の算出(現状:観光交流センター 80.36 m²)

案内カウンター (外国人案内含む)	現在のスペース(約50 m ²)の2倍	100 m ²
免税カウンター		
情報閲覧・休憩スペース (湯茶サーバー等設置)		
パンフレット置き場 及び周辺スペース		
事務室兼従業員休憩所	3.3 m ² /人×委託人員	33.0 m ²
給湯室	6.6 m ²	6.6 m ²
更衣室(ロッカー)	0.45 m ² /人×全社員	4.5 m ²
倉庫(事務用倉庫)	事務室の3分の1	11.0 m ²
会議室	1.2 m ² /人×40人規模	48.0 m ²
応接室	事務室の2分の1	25.0 m ²
		228.1 m ²

(参考: NEXCO 東日本 設計要領)

上記より、必要面積 228.1 m²-既存面積 80.36 m²= 150 m² を観光交流センター増築の基準として整備する。

(2) バスターミナル

現在、友愛の森内に入入りするバスは、高速バス、周遊バス、近隣観光施設等の送迎バスである。

バスの大きさ

有料バス	高速バス	大型	12m内外×2.5m幅
	路線バス	中型	9m内外×2.3m幅
	周遊バス	マイクロバス等	7m内外×2.0m幅 (小型バスと同等)
無料バス	送迎バス	マイクロバス等	7m内外×2.0m幅 (小型バスと同等)

友愛の森に立ち寄る高速バス (H29.4 現在)

下り (那須温泉方面) 11:30、13:30、15:40、19:40

上り (東京方面) 9:00、11:00、14:25、16:25

周遊バス (キュービー号)

1時間に2本程度

近隣観光施設等の送迎バス

最大1時間に2本程度と想定

(参考) 県道17号 (友愛の森バス停) に立ち寄る路線バス

下り (那須温泉方面) 1時間に1~2本

上り (那須塩原駅、黒磯駅方面) 1時間に1~2本

上記のバスに対し、現在はバス乗降場1箇所に対応しているが、特に大きな支障は報告されていない。利用者への分かりやすさを配慮して、高速バス、周遊バス、送迎バスの発着所は、現在の施設を改修することにより対応する。

(3) 足湯

平成25年度に行った利用者アンケートによると、33%の利用者が足湯・温泉の設置を希望している。

友愛の森においても那須の温泉をPRし、那須温泉の利用へとつなげる場として足湯を整備する。

規模は、湯本にある足湯「こんばいろの湯（12人程度が収容可能 建築面積約23㎡）」を参考に、友愛の森においては、より多くの利用者が見込まれること、また、温泉水のタンクやボイラー等の設備が必要と考えられるため、こんばいろの湯の2倍程度の50㎡を基準として整備する。



足湯「こんばいろの湯」

2 休憩機能

24 時間、無料で誰もが利用できる駐車場、トイレ、休憩所を提供し、安全で快適な那須町での周遊をサポートする。

(1) 駐車場

- 目標である年間来場者 110 万人に対応可能な規模の駐車スペースを、北駐車場の整備により確保する。
- 既存の駐車場（南側、東側）は、新たに整備するのではなく、区画線の変更などで対応する。
- 身障者用駐車場は、施設に最も近い位置に配置する。
- 施設内で購入した商品等を車に積み込みやすいよう、駐車スペースの大きさを広めに確保する。
- 歩行者専用の通路を確保し、ペット連れの来場者も含め全ての利用者が安全に場内を通行できるようにする。
- 除雪がしやすい工夫をする。
- キャンピングカーは、できるだけ大型車駐車場に誘導する。

■駐車場の規模算定

○必要駐車台数の算定

平成 25 年度に町が実施した交通量調査のデータを基に算定する。

観光シーズンでも十分に対応できるスペースを確保することから、交通量の多い夏期のデータ（平成 25 年 8 月 17 日（土）調査時のデータ、以下「夏季データ」。）を採用する。

必要駐車台数の算定は、次の算式により行う。

$$(\text{必要駐車台数}) = (\text{立寄台数}) \div (\text{回転率})$$

A 立寄台数

夏季データより、県道 17 号から友愛の森への立寄ピークは次のとおり。

・時間帯 9 時～10 時 ・通行台数 1,195 台 ・立寄率 22%

立寄台数 263 台 (県道 17 号)

同様に県道 30 号の立寄り台数を算出する。

・時間帯 9 時～10 時 ・通行台数 907 台 ・立寄率 20% (推定)

立寄台数 181 台 (県道 30 号)

B 回転率

1台あたりの駐車時間を40分と想定すると、回転率は60分/40分=1.5回転となる。

C 必要駐車台数

上記調査結果より駐車場の利用率は、普通車 98.50%、大型バス 1.50%であることから、必要駐車台数は次のとおりとなる。

必要駐車台数の算定

	立寄台数 (A)	回転率 (B)	必要駐車台数 (A)/(B)	普通車 (98.5%)	大型車 (1.5%)
県道17号 那須高原線	263台	1.5	175	172	3
県道30号 矢板那須線	181台	1.5	120	118	2
	444台		295	290	5

大型駐車場枠については、現南駐車場にて9台確保されているため、現状維持とするが、混雑時には警備員による空スペースへの誘導により対応する。

身障者用の駐車スペースは50台につき1台以上の駐車スペースを確保する必要があることから、6台分の身障者用駐車スペースを確保する。

従業員用の駐車スペースは、想定される従業員数分50台程度を別途確保する。

以上より駐車場（従業員用を除く）は、次の台数を基準として整備する。

駐車場	種別	駐車マス
北駐車場	普通車	147
	身障者	3
東駐車場	普通車	39
	身障者	3
南駐車場	普通車	94
	身障者	3
	大型車	9
計	普通車	280
	身障者	6
	大型車	9
合計		295
従業員駐車場	普通車	50

(2) トイレ

- 目標である年間来場者 110 万人に対応するため、北駐車場利用者の利便性向上のために、敷地北側に新たに北トイレを建設する。
- 災害時を含め、24 時間利用可能にする。
- 那須町の玄関口としてふさわしい清潔で明るいトイレにする。
- 夏場の暑い時期や冬場の寒い時期にあっても室内温度が快適となるようにする。
- 身障者、乳幼児連れの家族、高齢者等誰もが安心して利用することができるようになる。
- 節水や省電力、夜間電力の利用といった環境に配慮した設備を導入する。

■トイレの規模算定

新設される北トイレにおいては北駐車利用者の利用が想定されるため、北駐車場の駐車台数から、NEXCO 東日本のトイレ器数の算出方法を参考に算出することとする。

A トイレ利用人数 (1 時間あたり)

P16 より、普通車の駐車台数は 150 台となっている。普通車駐車回転率が 2.4 となっていることから立寄り台数は次のとおりとなる。

$$\text{普通車 } 150 \text{ 台} \times 2.4 = 360 \text{ 台}$$

それぞれの車種の平均乗車人数は、普通車 2.2 人であることから

$$\text{普通車 } 360 \text{ 台} \times 2.2 = \underline{\text{立寄人数 } 792 \text{ 人}}$$

道の駅であることから、トイレ利用率を 0.8 とすると

$$792 \text{ 人} \times 0.8 = \underline{\text{北トイレ利用人数 } 633 \text{ 人}}$$

B 性別利用人数

男女性別比率 (男子 0.54、女子 0.46)、ピーク率 (男子 2.1、女子 2.8) とすると、1 時間当たりの性別利用人数は次のとおりとなる。

$$\text{男子 } 633 \text{ 人} \times 0.54 \times 2.1 = 718 \text{ 人}$$

$$\text{女子 } 633 \text{ 人} \times 0.46 \times 2.8 = 815 \text{ 人}$$

C 便器数等算出

上記の結果から NEXCO 東日本のトイレ器数の算出方法により必要便器数を算出すると次のとおりとなる。

$$\text{男子小 } 0.8 \text{ (小便器利用率)} \times 718 / 95 \text{ (小便器回転率)} = \underline{\text{6 器}}$$